

[052]言語文化論究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/7172700>

出版情報：言語文化論究. 52, 2024-03-15. Faculty of Languages and Cultures, Kyushu University
バージョン：
権利関係：

個人研究業績一覧 (2022年11月～2023年10月)

言語環境学部門

言語教育学講座

Matthew ARMSTRONG

【論文】

- Armstrong, M. I. (2023). Feedback in L2 Academic Writing: Prescriptive or Developmental?. The Asian Conference on Education 2022. https://papers.iafor.org/wp-content/uploads/papers/ace2022/ACE2022_64948.pdf

【その他】

- Peer Review in L2 Academic Writing: An Exploratory Study. The 14th Asian Conference on Education. Tokyo, Japan. November 29, 2022. (oral presentation)
- Learner profiles: a holistic approach to understanding the whole learner. IATEFL Harrogate 2023. Harrogate, UK. April 18, 2023. Co-Presenter Tanya McCarthy, Kyoto University. (oral presentation)

Khadijah OMAR

【その他】

- Examining Japanese Students' Understanding of Intercultural Communication through Documentary Production. JALT Oita 13th Annual Symposium Event, J:COM Horuto Hall, Oita, Japan, 6 November 2022. (Oral presentation)

朱 冰

【論文】

- 朱 冰「中国語の副詞“不妨”に見られる間主観的意味の分化」,『日本認知言語学会論文集』第23巻, 日本認知言語学会, pp. 286-296, 2023年4月.

【学会発表】

- ZHU, Bing. 'What you need to know is what I argue: On the (inter) subjectivity of Mandarin Chinese discourse marker *yàozhǐdào*'. The 16th International Cognitive Linguistics Conference. Heinrich Heine University Düsseldorf, Germany. August 2023. (ポスター発表)

【その他】

- (取材)「異文化の窓 初修外国語を学ぼう」『九大広報』Vol. 127, 2023年7月.

辻野 裕紀

【著書】

- 『あいだからせかいをみる』, 温又柔・深沢潮・辻野裕紀, 横浜:生活綴方出版部, 全72頁, 2023年10月27日. (共著)

【論文】

- 「〈愛の言語論〉序説」, 『言語科学』58, pp. 21-33, 福岡:九州大学大学院言語文化研究院言語研究会, 2023年3月.
- 「〈翻訳〉についての若干の覚え書き」, 『韓国朝鮮文化研究』22, pp. 53-64, 東京:東京大学大学院人文社会系研究科韓国朝鮮文化研究室, 2023年3月.

【その他】

- 「九州大学アジアウィーク2022「現代中国社会における家族とジェンダー～映画『結婚しない、できない私』をとおして」」, 於九州大学伊都キャンパス, 2022年11月7日. (パネリスト)
- 「日韓市民100人未来対話 分科セッション3 「ジェンダー平等社会のための日韓市民の努力と課題」」, 於ツインメッセ静岡(静岡), 2022年11月12日. (パネリスト)
- 「映画『福岡』上映アフタートーク「尹東柱の詩とチャン・リュル映画」」, 於KBCシネマ, 2022年12月25日. (対談)
- 「九州大学韓国研究センター×九州韓国研究者フォーラム 共同研究プロジェクト・キックオフシンポジウム『世界史』の中の韓国:その構造変動に関する総合的研究 第2部 斎藤真理子氏講演「冷戦時代の肖像としての『密航の文学』」」, 於九州大学西新プラザ, 2023年3月7日. (コメントーター)
- 「〈チャン・リュル福岡三部作〉浅析:言語論と文学の交差路として」, 対照言語学研究会第4回例会, 於福岡大学, 2023年3月10日. (口頭発表)
- 「自著を語る 日韓の交流と共生:多様性の過去・現在・未来」, 『Crossover』48, 福岡:九州大学大学院地球社会統合科学府, 2023年3月. (本の紹介)
- 「キム・ヨンス『ぼくは幽霊作家です』小考」, 『言語文化論究』50, 福岡:九州大学大学院言語文化研究院, 2023年3月. (講演録)
- 「歴史言語学が解き明かす韓国語の謎 第1回:序論」, 白水社「webふらんす」, 東京:白水社, 2023年4月. (解説)
- 「歴史言語学が解き明かす韓国語の謎 第2回:濃音と激音の起源」, 白水社「webふらんす」, 東京:白水社, 2023年4月. (解説)
- 「母語でないことばで書く人びと 第1回:非母語という希望:言語論と文学の交差路へ」, 朝日出版社「あさひてらす」, 東京:朝日出版社, 2023年4月. (評論)
- 「歴史言語学が解き明かす韓国語の謎 第3回:夷日と여칠のどちらが正しいのか」, 白水社「webふらんす」, 東京:白水社, 2023年5月. (解説)
- 「歴史言語学が解き明かす韓国語の謎 第4回: -로서と -로써の使い分け」, 白水社「webふらんす」, 東京:白水社, 2023年5月. (解説)
- 「國分功一郎氏(哲学者)著作群合評会」(ゲスト:國分功一郎), 於西南学院大学, 2023年5月28日. (評者)
- 「母語でないことばで書く人びと 第2回: グカ・ハン」, 朝日出版社「あさひてらす」, 東

- 京：朝日出版社，2023年5月。（評論）
- 「歴史言語学が解き明かす韓国語の謎 第5回：言語化石（1）」，白水社「web ふらんす」，東京：白水社，2023年6月。（解説）
- 「歴史言語学が解き明かす韓国語の謎 第6回：言語化石（2）」，白水社「web ふらんす」，東京：白水社，2023年6月。（解説）
- 「済州方言の形態素分析の意義」（高東昊著），『朝鮮学報』261，天理：朝鮮学会，2023年6月。（翻訳）
- 「母語でないことばで書く人びと 第3回：ジュンパ・ラヒリ」，朝日出版社「あさひてらす」，東京：朝日出版社，2023年6月。（評論）
- 「歴史言語学が解き明かす韓国語の謎 第7回：ハングルの「ハン」とは何か」，白水社「web ふらんす」，東京：白水社，2023年7月。（解説）
- 「歴史言語学が解き明かす韓国語の謎 第8回：「キムチ」の語源」，白水社「web ふらんす」，東京：白水社，2023年7月。（解説）
- 「母語でないことばで書く人びと 第4回：アゴタ・クリストフ」，朝日出版社「あさひてらす」，東京：朝日出版社，2023年7月。（評論）
- 「歴史言語学が解き明かす韓国語の謎 第9回：母変格用言の起源」，白水社「web ふらんす」，東京：白水社，2023年8月。（解説）
- 「歴史言語学が解き明かす韓国語の謎 第10回：父変格用言の起源」，白水社「web ふらんす」，東京：白水社，2023年8月。（解説）
- 「母語でないことばで書く人びと 第5回：イーユン・リー」，朝日出版社「あさひてらす」，東京：朝日出版社，2023年8月。（評論）
- 「〈逃避〉のための言語学習」，対照言語学研究会第5回例会，於東北学院大学（仙台），2023年8月30日。（口頭発表）
- 「逃避と幸福の言語論」，「韓国語セカイを／で生きる」プロジェクト第10回研究会，於立命館大学（京都）+オンライン，2023年9月1日。（口頭発表）
- 「歴史言語学が解き明かす韓国語の謎 第11回：〈n挿入〉の発生論と機能論」，白水社「web ふらんす」，東京：白水社，2023年9月。（解説）
- 「歴史言語学が解き明かす韓国語の謎 第12回：アクセントと長母音」，白水社「web ふらんす」，東京：白水社，2023年9月。（解説）
- 「母語でないことばで書く人びと 第6回：グレゴリー・ケズナジャット」，朝日出版社「あさひてらす」，東京：朝日出版社，2023年9月。（評論）
- 「由水南×辻野裕紀トークショー：自分らしさが輝く生き方」，於九大伊都蔦屋書店，2023年10月1日。（対談）
- 「母語でないことばで書く人びと 第7回：カン・ハンナ」，朝日出版社「あさひてらす」，東京：朝日出版社，2023年10月。（評論）

野村 明衣

【論文】

- 「スペイン語における文頭、文末表現の機能について — mira, oye, fijate を通して —」，『HISPÁNICA』（日本イスパニヤ学会）第66号，pp. 25-51. 2023年1月20日.

【その他】

- 「周辺部におけるスペイン語の注意喚起表現」認知語用論講演会・研究会, 九州大学大学院言語文化研究院, 2022年12月10日. (口頭発表)
- Estudio contrastivo sobre las expresiones apelativas en español y japonés. IV Congreso Internacional de Formas y Fórmulas de Tratamiento en el Mundo Hispano-Luso, Universidad de Cádiz, 2023年6月7日. (口頭発表)
- Una propuesta para enseñar el uso pragmático de oye y mira a través del significado léxico y el grado de desemantización. 33.er Congreso Internacional de ASELE. Universidad de Burgos, 2023年8月30日. (口頭発表)
- 「呼びかけ表現の位置と機能 — ¿sabes?, ¿entiendes?, ¿comprendes? を中心に —」日本イスパニヤ学会 第69回大会, 中央大学, 2023年10月14日. (口頭発表)

Christopher HASWELL**【著書】**

- 「World Englishes, EMI, and State-of-The-Art International English」 in 『World Englishes, Global Classrooms (Eds. Hemmy, K., Balasubramanian, C.)』 2022年12月. (with Jonathan Shachter)

【論文】

- 「Debating researcher labels in the field of language learning psychology: Do we really have an identity crisis?」『九州大学言文論究』no.50 pp. 53-63, 2023年03月. (with Jonathan Shachter)

【その他】

- 「English as an effective tool of international communication」 Invited speech at the University of Kaleniya, Sri Lanka, 2023年03月. (口頭発表) [online]
- 「International universities and intercultural communication」 Invited speech at Taiwan University, Taiwan, 2023年03月28日. (口頭発表) (with J. Shachter) [online]
- 「How can we learn what academics think about their peers' opinions?」 8th Conference on Global Education, KOTESOL International Conference, Seoul, Korea, 2023年04月29日. (口頭発表) (with J. Shachter)
- 「New routes for qualitative research using podcast interviews」 PanSIG, Kyoto, Japan, 2023年05月13日. (口頭発表) (with J. Shachter)
- 「How experts view English Medium Interaction's development: a podcast-related research narrative」 9th Conference on Global Education, Lakeland International University, Tokyo, Japan, 2023年06月3日. (口頭発表) (with J. Shachter)

Academic Websites

- Lost in Citations: <https://www.lostincitations.com>
- ELF Communication: <https://www.elfcommunication.com> (supported by Grant in Aid #20K00746) (with A. Hahn).

言語環境学部門**言語情報学講座****伊藤 薫****【論文】**

—— 伊藤薰, 森田敏生. 2023.「ChaKi.NET lite の開発」『国立国語研究所論集』25, 75-88.

【その他】

- 伊藤薰, 2023. 「構成の反復」の並行性についての構文文法的記述の試み, Evidence-based Linguistics Workshop 2023, 国立国語研究所. (2023/09/15, 口頭発表)
- 伊藤薰, 森田敏生. 2023. ChaKi.NET lite. (ChaKi.NET のユーザインターフェイス部分を初心者向けに改良したコーパスツール. Universal Dependencies ツリーバンクの利用に適している. <https://github.com/chakidev/chakinet-lite>)

内田 諭**【著書】**

- 内田諭（監修）石原健志（著）『英語長文読解 プラクシス』Level 2 / Level 3, Z会, 2022年11月.
- 野村恵造・山崎のぞみ・内田諭・今野勝幸・西脇幸太, Vision Quest: English logic and expression II: Ace / Hope 2022年12月.
- 藤井聖子・内田諭『フレーム意味論とフレームネット』研究社, 2023年5月.

【論文】

- Y. Arase, S. Uchida, & T. Kajiwara, CEFR-based Sentence Difficulty Annotation and Assessment, Proceedings of the 2022 Conference on Empirical Methods in Natural Language Processing, 6206-6219, 2022年12月.
- S. Uchida, M. Morita, Measuring Similarities Within Word Families: A Word-embedding Approach Using word2vec 『英語コーパス研究』30, 27-45, 2023年5月.
- 「CEFR レベルによる英語学習者の作文の特徴分析：ICNALEに基づいた中間言語の国際比較」大津隆広編『データを用いたことばとコミュニケーション研究の手法』ひつじ書房, 3-19, 2023年10月.

【その他】

- 内田諭「コーパスから見る類義語の違い」英語学習や英文法観を考える『テオリア』&『プラクシス』発刊記念セミナー：高校教員の英語学習や英文法観のバージョンアップのために, 2022年12月.
- Y. Arase, S. Uchida, & T. Kajiwara, CEFR-based Sentence Difficulty Annotation and Assessment, Conference on Empirical Methods in Natural Language Processing (EMNLP2022), 2022年12月.
- 野口夏希・梶原智之・荒瀬由紀・内田諭・二宮崇「擬似データを用いた教師あり学習による語彙平易化」言語処理学会第29回年次大会, 2023年3月.
- 吉見菜那・梶原智之・内田諭・荒瀬由紀・二宮崇「問題タイプを考慮した英単語穴埋め問題の不正解選択肢の自動生成」言語処理学会第29回年次大会, 2023年3月.
- S. Han, B. K. Iwana, & S. Uchida, Classification of Polysemous and Homograph Word Usages using Semi-Supervised Learning, 言語処理学会第29回年次大会, 2023年3月.

- 田中康介・吉見菜那・梶原智之・内田諭・荒瀬由紀「マスク言語モデルによる英文空所補充問題の解答能力に関する分析」情報処理学会第85回全国大会, 2023年3月.
- 内田諭「コーパスとしての生成系AIの有用性と限界」第49回英語コーパス学会, 2023年9月.
- N. Yoshimi, T. Kajiwara, S. Uchida, Y. Arase, & T. Ninomiya, Distractor Generation for Fill-in-the-Blank Exercises by Question Type, 61st Annual Meeting of the Association for Computational Linguistics (Student Research Workshop), 2023年7月.
- 高橋有加・森田光宏・内田諭・神白哲史・武藤克彦「中学校英語教科書の計量的分析：学習指導要領改訂前後の比較」第48回全国英語教育学会, 2023年8月.
- 内田諭「記号創発ロボットは多義性を獲得できるか：認知言語学の視点から」第15回LangRobo研究会, 2023年7月.
- 内田諭「フレーム意味論と英語学習辞書」2023年度JACET英語辞書研究会第1回例会, 2023年10月.

江口 巧

【論文】

- 「日本人英語学習者にとっての into — 状態変化の経路に横たわる境界を越えて — 」『英語英文学論叢』(九州大学大学院言語文化研究院英語科) 第73集, pp. 1-20, 2023年3月.

【その他】

- 「コロナ禍における授業実践について」『英語英文学論叢』(九州大学大学院言語文化研究院英語科) 第73集, pp. 37-42, 2023年3月. (エッセイ)

大津 隆広

【著書】

- 『データを用いたことばとコミュニケーション研究の手法』ひつじ書房, 全264頁, 2023年10月. (編著)

【論文】

- Distinctiveness of Procedural Expressions in Sequences. Proceedings of the 18th International Pragmatics Conference, p.1356, 2023年7月. (単著)

【その他】

- 「高年次学生への外国語教育について」令和4年度国立七大学外国語教育連絡協議会, 大阪大学(オンライン), 2022年11月25日. (口頭発表)
- 「認知語用論講演会・研究会」九州大学伊都キャンパス, 2022年12月10日. (企画, 司会, コメンテーター)
- Distinctiveness of Procedural Expressions in Sequences. 18th International Pragmatics Conference, Brussels), 2023年7月13日. (口頭発表)

大塚 知昇

【論文】

- On Internal pair-Merge and Ambiguous Chains. English Linguistics, 39, pp. 157-190, April 2023.

査読有.

- Ryoichi KONDO, Tomonori OTSUKA, Yuta TANAKA, Satoru KANNO. A Note on Movable Size: FormCopy Does Operate between Features. *Tōkai English Studies*, 5, pp. 31-47, March 2023. 査読有.

【その他】

- Satoru Kanno, Tomonori Otsuka, Ryoichi Kondo, Yuta Tanaka. The Overt Focus Movement to vP Periphery in English, *ELSJ Spring Forum* 16, March, 2023. (oral presentation)
- 菅野悟, 田中祐太, 大塚知昇, 近藤亮一「ラベル理論における主要部の（不）可視性と移動の随意性」日本英文学会東北支部, 第77回大会, 2022年12月. (口頭発表)

吳 修詰

【著書】

- 『燈謎：漢字文化圏文字遊戯の諸相』文学通信, 全296頁, 2023年2月. (単著)

- 『明末日用類書燈謎選集』文学通信, 全176頁, 2023年2月. (校訂・誤注)

【その他】

- 「考古学的器種名の訳語選択について——「杯(つき)」の中国語訳を例に——」『奈良文化財研究所創立70周年記念論文集』(国立文化財機構奈良文化財研究所) 文化財論叢5, 奈良文化財研究所学報第102冊, pp. 783-788, 2023年3月. (研究ノート)
- 「文化財を「翻訳」する(三) : 練習問題と参考資料」『文化財多言語化研究報告3』(国立文化財機構奈良文化財研究所) 奈良文化財研究所研究報告第38冊, pp. 18-25, 2023年3月. (講義録)
- 「文化財中訳スタイル・マニュアル: 約物編」『文化財多言語化研究報告3』(国立文化財機構奈良文化財研究所) 奈良文化財研究所研究報告第38冊, pp. 74-79, 2023年3月. (資料)
- 「2022年度文化財関連用語日中対訳集」『文化財多言語化研究報告3』(国立文化財機構奈良文化財研究所) 奈良文化財研究所研究報告第38冊, pp. 116-131, 2023年3月. (資料)

鈴木 右文

【著書】

- 『戦争は、だめだ！』 横書房, 全263頁, 2023年6月. (単著)

【その他】

- 「産業名(13)」「ともだちのうちはどこ?」「ダムファームリン(カーネギー)」「ニューヨーク公共図書館 エクリ・リブリス」「福岡」「清く正しく美しく」「今年は行きますが、イギリス」「ハー・マジェスティズ・シアター」「初対面の挨拶」「シンドラーのリスト」「ウェルズ」「挨拶後本題に入る前に」「月光の夏」「グローブ座」「大きな転換期を迎えて今、私たちはこれから未来をどう生き抜くか」FM福岡『QTPro モーニングビジネススクール』, 2022年11月～2023年10月. (ラジオ)
- 「Blue Island 憂鬱の島」「リフレクション」「島守の塔」「百年と希望」「教育と愛国」「長崎の郵便配達」「雪道」「ベルファスト」「原発を止めた裁判長」「反戦情報』459-462/464-466/468-469号, 2022年11月～2023年3月 /2023年5月～7月 / 9月～10月. (コラム)

吉村 理一

【論文】

- 「日英語通訳 / 翻訳における等位構造の解釈と和訳」『韓国日本文化学会第63回国際学術大会兼韓国日本研究総連合会第11回学術大会予稿集』 pp. 67-71, 2023年4月. (単著)
- 「英語等位構造における解釈多義性と英日通訳」『比較文化研究』 No.152, pp. 63-78, 2023年7月. (単著)

【その他】

- 「英語の等位構造とその解釈をめぐって」第1回 思想・ことば・メディアをめぐる研究交流会, 北九州市立大学, 2022年12月9日. (懇親発表)
- “Politeness in Embedded and Subordinate Domains” The Workshop on Theoretical East Asian Linguistics 13 (TEAL-13), National Taiwan Normal University, May 12-14, 2023. (Oral Presentation)
- 「外国語教育における機械翻訳等の支援ツールの使用について — 英語科目を事例として」九州大学大学院言語文化研究院主催 FD, オンライン開催, 2023年5月18日. (口頭発表)
- 「機械翻訳（MT）の最前線 — MT が得意なこと・不得意なこと」九州大学大学院言語文化研究院主催講演会, ハイブリット開催, 2023年6月29日. (世話役・司会)
- 「プロジェクト発進型英語プログラムでのAIツール活用について — MT / ChatGPTなどのAIツールを中心に」九州大学大学院言語文化研究院主催講演会, ハイブリット開催, 2023年8月22日. (世話役・司会)
- 「and を伴う条件接続と項の抜出しに関する一考察」長崎言語学研究会, 長崎大学, 2023年9月19日. (懇親発表)
- 「英語学習におけるAI活用ガイドライン(動画・スライド資料)」九州大学大学院言語文化研究院監修, 2023年9月25日. (世話役)

国際文化共生学講座

国際共生学講座

加藤 哲平

【著書】

- *Nicht am Ende mit dem Latein: Die Vulgata aus heutiger Sicht*, ed. Michael Fieger and Brigitta Schmid Pfändler, Lausanne: Peter Lang, 216 pp. 分担執筆 “Hebraica Veritas und die Zitate aus dem Alten Testament im Neuen Testament” (pp. 24-25); “Ein wandernder Aramäer? (Dtn 26,5)” (pp. 68-70); “Hieronymus und das alttestamentliche Zitat (Joh 7,38)” (pp. 105-6), 2023年8月. (共著)

【その他】

- 「堀忠著『レプラと奇跡：脱神話化と脱医学化に向けて』(新教出版社, 2022年)」『日本の神学』(日本基督教教学会) 第62号, pp. 130-35, 2023年9月. (書評)
- 「聖書の語り直し：『ゴールポストをずらさない』研究を目指して」日本聖書学研究所, 2022年度12月例会, オンライン, 2022年12月19日. (口頭発表)
- 「古代の聖書翻訳における『誤訳』の一考察」九州大学言語研究会, 2022年度第2回研究会, オンライン, 2023年1月19日. (口頭発表)

- 「ヒエロニムスとアウグスティヌスの往復書簡における聖書文献学」フランス近世の〈知脈〉, 第9回研究会, 大阪大学／オンライン, 2023年2月12日. (口頭発表)
- 「『ヘブライ人に訊け！』: ヒエロニムスとヘブライ語聖書」京都ユダヤ思想学会, 第14回研究ティータイム, オンライン, 2023年4月30日. (口頭発表)
- 「『世界まる見え！テレビ特捜部』ウソかマコトか？SP！人工衛星が捉えた謎の巨大地上絵まさかの正体」日本テレビ, 2022年12月12日. (ユダヤ教に関するVTR監修)

川澄 哲也

【論文】

- 「元代白話および青海方言の句末に現れる『有』について — 賈晞儒氏の『同源説』を検討する —」, 『九州中国学会報』61, pp. 119-106, 2023年5月.

【その他】

- 「現代青海方言与元代汉儿言语是否存在来源关系？」Second Symposium on “Language Contact in Northern China and the Historical Evolution of Chinese Language”, Centre de recherches linguistiques sur l’Asie orientale [CRLAO], 2023年7月7日. (口頭発表 [オンライン])

永川 とも子

【論文】

- The Fabricated Hibakusha Narrative: The Araki Yasusada Affair and Literary Criticism. Studies in Languages and Cultures, No. 50, pp. 43-52, March 2023.

福元 圭太

【その他】

- 「質の量的還元を巡って —「ベルクソンのフェヒナー批判」を批判する試み —」PBJ (Project Bergson in Japan) 主催ワークショップ「精神物理学の起源と展望：フェヒナー, ベルクソン, そして…」, 福岡大学, 2023年1月7日. (対面・オンラインのハイブリッド形式口頭発表)

国際文化共生学講座

国際文化学講座

秋吉 收

【共著】

- 『鲁迅与現代文化価値重建 紀念魯迅140周年誕辰論文選集(全3卷)』(ISBN: 9787537867047), 北岳文芸出版社(太原), 分担執筆「鲁迅与北京星星文学社《文学周刊》—以周靈均《刪詩》為線」, pp. 217-226(第2卷), 2023年5月.
- 『国別区域視闇下的百年変局與東亜合作』(ISBN: 9787560777481), 山東大学出版社(济南), 山東大学亞太研究所・南亜研究中心・中日韓合作研究中心編(樊麗明主編) [Srikanth Kondapalliほか31名執筆], 分担執筆「現代中国对日本大正文壇的訳译介与接受—芥川龍之介和周氏兄弟为中心」, pp. 360-372, 2023年5月.
- 『【アジア遊学286】近代アジアの文学と翻訳—西洋受容・植民地・日本』(ISBN:

9784585325321), 勉誠社, 西槇偉・林信藏・藤原まみ編 [波瀬剛ほか16名執筆], 分担執筆「魯迅、周作人兄弟による日本文学の翻訳について——『現代日本小説集』(上海商務印書館、一九二三年)に注目して」, pp. 85-102, 2023年7月.

【論文】

- 「魯迅与日本大正文壇——以佐藤春夫為線索」, 『紹興文理学院学報』第42卷第11期〔総第361期〕, pp. 1-10, 2022年11月.
- 「魯迅『野草』の掲載誌『語絲』について——「愛知県立大学」所蔵“原本”の発見」, 『周氏兄弟研究』第1号【特集「周氏兄弟と1920年代——『新青年』から『語絲』へ」, pp. 149-174, 2023年3月.

【その他】

- 「關於魯迅『野草』的刊載雜誌『語絲』」, 『中国魯迅研究会2022年会暨“魯迅研究的歷史回顧与範式推進”國際學術研討會』, 北京第二外國語大學(オンライン参加), 2022年11月6日. (口頭発表)
- 招待講演「魯迅和日本, 以及其文本探尋」, 『「我們的魯迅」工作坊——台大文學院「中國文學創新研究與跨國漢學建構」計畫講演会』, 台湾大学中文系(オンライン参加), 2022年12月10日. (口頭発表)
- 「現代中國對日本文壇的訳介与接受——《現代日本小説集》為線索」, 『“猶在二周之間——‘周氏兄弟’与中国新文学”國際學術研討會』, 復旦大学(上海), 2023年9月23日. (口頭発表)

倉方 健作

【著書】

- ミシェル・ビュトール著, 石橋正孝監訳『レペルトワールIII』, 幻戲書房, 全496頁, 2023年2月. (翻訳分担)

【論文】

- 「瀧澤龍彦とアカデミズム 新旧学制の狭間で」『言語文化論究』(九州大学大学院言語文化研究院) 第50号, p. 19-32, 2023年3月.

【その他】

- 「瀧澤龍彦におけるロラン・ヴィルヌーヴの著作の利用」, 第15回瀧澤龍彦研究会(オンライン), 2023年1月28日. (口頭発表)
- 「フツブン 辰野隆とその時代」(1), 『ふらんす』(白水社), 2023年10月号. (連載コラム)

佐藤 正則

【論文】

- 「ボグダーノフのプロレタリア芸術理論の変容」『言語文化論究』(九州大学大学院言語文化研究院) 第50号, pp. 33-42, 2023年3月.

【その他】

- 「書評 貝澤哉・杉浦秀一・下里俊行編『〈超越性〉と〈生〉との接続——近現代ロシア思想史の批判的再構築に向けて』」『ロシア史研究』(ロシア史研究会) 第110号, pp. 143-149, 2023年6月.

——「西欧を越えるロシア～19-20世紀のロシア知識人の文明論」朝日カルチャーセンター福岡教室「今だからこそロシアを知ろう！」第4回，朝日カルチャーセンター福岡教室・オンライン併用，2023年7月1日.

薦原 亮

【論文】

—— Un estudio sobre la frecuencia de uso de locuciones. *Studia Romanica*, 55, 1-16, JUL 2023.

【その他】

- 「de manera/forma/modo その定型性と異同 意味と共に語に着目して」日本ロマンス語学会，第61回大会，明治学院大学，2023年5月13日. (口頭発表)
- 「語用論的表現のリソースとしての decir —— 言う・say との対照の観点から ——」日本イスパニヤ学会，第69回大会，中央大学，2023年10月14日. (口頭発表)

中里見 敬

【論文】

- 中里見敬，李莉薇「再論日本學者對中國戲劇表演史的開拓性研究：以濱一衛的觀劇記爲中心」吳宛怡主編『二十世紀前期中國戲曲的跨境、交流與轉化』香港：三聯書店（香港）有限公司，pp. 31-68，2022年11月. (共著)
- 中里見敬，李莉薇「再论日本学者对中国戏剧表演史研究的开拓：以滨一卫的观剧记为中心」『戏曲艺术』（中国戏曲学院）2023年第1期，pp. 92-101，2023年2月. (共著)

【その他】

- 「東亜同文書院の伝統的中国語教授法「念書」とその戦後における継承」『中国研究論叢』（霞山会）第22号，pp. 73-93，2023年2月. (研究ノート)
- 李莉薇，中里見敬「九州大学汉学家中里见敬教授访谈录」『国际汉学』（北京外国语大学）2023年第5期，pp. 130-137，2023年9月. (インタビュー)
- 「萩野先生と謝冰心『春水』手稿」『萩野脩二先生追悼文集』萩野脩二先生追悼文集編集委員会，pp. 68-70，2023年10月. (追悼文)

浜本 裕美

【論文】

—— 「Χρυσηλάκατος について —— アルテミスと水辺の女神たち」『フィロロギカ 古典文献学のために』第18号，pp. 1-19, 47-48，2023年7月.

【書評】

- C. Jendza, *Paracomedy: Appropriations of Comedy in Greek Tragedy*. Pp. xi + 341, Oxford University Press 2020. \$74.00. ISBN 9780190090937. 『西洋古典学研究』第70号，pp. 80-82，2023年2月.

劉 麗

【著書】

—— 『データを用いたことばとコミュニケーション研究の手法』大津隆広（編著），内田諭・土

屋智行・劉鷗ほか（共著）（担当箇所：1. 語彙・構文「形状類別詞『片』『张』『扇』『面』について」pp. 47-63, ひつじ書房, 2023年10月. (共著)

【論文】

—「基于感知训练的汉语语音教材——第一版和第二版的比较」『言語科学』(九州大学大学院言語文化研究院言語研究会) 第58号, pp. 35-46, 2023年3月. (共著)

【その他】

—「知覚トレーニングに基づく中国語発音教材の開発——音声産出における効果の検証」2023年度第71回九州中国学会大会, 2023年5月. (口頭発表・共著)